

2023/6/05

ヨハネの黙示録 講解メッセージ①

『ヨハネの黙示録 3章 ーフィラデルフィヤの教会ー』

■フィラデルフィヤの教会

「また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がなく、その方がこう言われる。』（黙示録 3:7)

フィラデルフィアという町は新しい都市で、この教会もまだ開拓したばかりの若い教会です。ヨハネの黙示録は、7つの教会に宛てて、それぞれ教会の事情に合わせて書かれています。それらの手紙の結論はすべて「何があっても、最後は必ず天に引き上げられるから心配ない」という励ましです。

7つの教会に宛てた手紙には、イエス・キリストについての表現にもそれぞれ特徴があります。この手紙では、イエス・キリストは『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方』と呼ばれています。

「聖なる方」とは、イエス様は、メシヤであり、油注がれた方であり、キリストであるということ、象徴的に表す表現です。

「真実な方」とは、イエス・キリストは真実であり、嘘偽りは言えないということです。聖書は、イエス・キリストを証しする書であり、神のことば、真理の書です。真理に対して、人は、従うのか従わないのか、認めるのか認めないのかという選択しかありません。人間の意見に対しては、様々な意見や反論があってもかまいませんが、真理に対しては反論の余地はありません。つまり、私たちは聖書に対して異議を申し立てる立場にないのです。聖書は、あなたを納得させるために書かれた本ではありません。神が真理を述べ、あなたはそれを信じるかだけが問われ、決断を求められているのです。

さらに、「ダビデのかぎを持っている方」とは、この教会に対してのみ、使われている表現です。これは、イザヤ 22:22 からの引用で、キリストはダビデの子孫から生まれるという預言を表しています。

神は真実な方ですから、誰もその決定を覆すことはできません。つまり、イエス・キリストが、「あなたは義人であり救われた」と言うのであれば、その救いを取り消すことは誰にも

できないのです。救われた者は永遠のいのちを持っていて、その永遠のいのちを奪うことは誰にもできないし、あなたをキリストの愛から引き離すことは誰にもできないのです。

■だれも閉じることのできない門

「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。」(黙示録 3:8)

ここで「行い」と言われているのは、伝道のことです。伝道とは何でしょうか。それはもちろん神の愛を伝えることです。神の愛とは、具体的には「赦す」ということです。神の愛はあなたを赦し、そして、この愛は誰の上にも注がれていますから、誰もが神に赦された者です。ということは、私たちは互いに裁き合う材料を持っていないので、互いを裁かないで、そのまま受け入れ合う立場にあるということです。この世界は赦されない世界です。過去に目が向けられ、過去に苦しめられます。しかし、神の世界は、赦される世界です。伝道とは、この神の愛を伝えていくことなのです。

また、「だれも閉じることのできない門」とは、イエス・キリストのことです。イエス・キリストは、ご自分のことを門と言われました。「誰もこの門を閉じることができない」とは、イエス・キリストの愛から誰も引き離すことはできないということです。「その門をあなたの前に開いておいた」とは、私たちがその門を自分で見つけて通ったのではなく、神によってその門を開いていただき、神によって救われたということです。

「そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしは羊の門です。わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。わたしは門です。だれでも、わたしを通過して入るなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけます。盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。」(ヨハネ 10:7-10)

「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」(ヨハネ 10:28)

イエス・キリストとは、永遠のいのちです。誰も私たちから永遠のいのちを奪い取ることはできません。これが、「ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がいない」（黙示録 3:7）ということです。

あなたは、自分がイエス様を信じたから救われたのだと思っているかもしれませんが。しかし、そうではなく、神があなたにイエス・キリストを啓示し、神があなたを導いたから救われたのです。私たちがイエス・キリストを信じることができるのは、自分の努力によるものではありません。

「わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」（ヨハネ 6:44）

神が引き寄せてくださらない限り、イエス・キリストとつながることはできません。つまり、神が私たちに御手を差し伸べてくださり、その御手につかまった時、私たちは神のもとに引き寄せられ、イエス・キリストとつながることができるのです。ですから、永遠のいのちとはイエス・キリストを知ることなのです。

そして、イエス・キリストを信じる者は、終わりの日によみがえらされます。聖書が「終わりの日」と呼ぶ日は、2回あります。私たちが神の呼びかけに応答した瞬間と、肉体の死の時です。ですから、よみがえりも2回あります。

「まことにまことにあなたがたに告げます。主任が神の声を聞く時が来ます。今がその時です。そして聞くものは生きるのです。」（ヨハネ 5:25）

これが最初の終わりの日であり、よみがえりです。神の呼びかけに応答し、神の御手につかまった時、死人であった私たちは生きるものになりました。これが最初の終わりの日、よみがえりの時です。この日を迎えると、その人は、やがてイエス・キリストを信じるようになっていきます。ですから、イエス・キリストを信じている人はすでに死から命にうつさされていて、永遠のいのちを持っていると教えられています。

次に、聖書は肉体の死のことを、2度目の終わりの日と呼んでいます。肉体の死は、その人がこの世界と決別する日なので、その人にとっての世界の終焉を迎えることを意味します。肉体の死はいつ来るか分かりませんが、その時、私たちは天に引き上げられるのです。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」（ヨハネ 6:54）

「私の肉を食べ私の血を飲む者」とは、イエス・キリストを信じている者ということです。その人は永遠のいのちを持ち、終わりの日、つまりこの肉体の死と同時に、神によってよみがえらされます。ただし、この時を迎えるまでに、人はこの地上でいろいろな苦難に会います。しかし、たとえどんな苦難に会っても、最後は必ずよみがえるからと励ましているのがヨハネの黙示録であり、イエス様の黙示録です。

さて、黙示録 3:8 の「なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである」とは、どういうことでしょうか。「少しばかりの力」とは、神が一人一人に与えてくださった賜物です。その賜物によって、彼らは伝道したのです。開拓期の教会というのは不思議なもので、伝道する人たちが集まってきます。神が土台となる人たちを集めてくださるわけです。

■ユダヤ人だと自称する人々

「見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しながら実はそうではなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを知らせる。」(黙示録 3:9)

開拓期のこの教会には、基礎となる人々とは真逆の人たちもいました。彼らはサタンの会衆と呼ばれています。

「サタン」とはこの世の象徴です。この世界は滅びる世界であり、死の世界です。私たちは神から信仰をいただき、永遠のいのちをいただいています。永遠のいのちは目に見えないので、この世界は、あなたが信じていることはまやかしだと否定してきます。つまり、「サタン」とは、神のことばを否定する世界を象徴する言葉です。

ということは、この世界に生きている私たちは、常にサタンと戦っていることになります。神のことばを否定する世界にいる限り、神のことばを確認することができません。ですから、信仰が必要なのです。信仰とは、この世界と戦うものなのです。

この世界では、永遠のいのちを受け取っても、変化した自分が見えません。そのため、誰もが不安です。クリスチャンは、誘惑や不安、見えるものにしがみつこうとする思いと戦わなければならないのです。

この世の人たちは、イエス・キリストを否定してきます。そして、見えないものを信じる私たちは愚かだと言ってくる。にもかかわらず、クリスチャンって楽しそう、面白そうだと言って、教会に集う人たちはたくさんいます。イエス・キリストを求めるのではなく、

他のことを求めて集まってくるのです。つまり、見えるものを信じて神を求めない人、見えないイエス・キリストは信じないという人、これらの人たちがサタンの会衆に属する人です。ユダヤ人とは、神を信じていることの象徴です。ユダヤ人だと自称するとは、神を信じていると口では言うけれど、神を求めているわけではない人のことです。

確かに開拓期には、いろいろな人が来て、いろいろな問題が生じるものです。しかし、最後は神がふるいにかけておられます。だから、どんな試練に会っても、困難にあっても神についていくことが大切です。神がふるいにかけて、成長させてくださいます。そうして土台が築き上げられるのだから大丈夫だと、神は教会に向かって励ましておられるのです。

■試練に立ち向かえ

「あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には、あなたを守ろう。」（黙示 3:10）

「あなたが私を信じ続けるから私はあなたを守る」とは、私たちを守ってくれるのは信仰だということです。どんなことがあっても神を信じ続けるなら、あなたは試練から守られます。

「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」（ヤコブ 1:2-4）

「試練にあったら喜べ」とは、信仰が試されて練られることで、あなたは成長するからです。信仰を成長させるとは、自分を成長させることです。

この世界は見えないものを否定しますから、私たちは必ず様々な試練に会います。試練に会うと不安になりますが、この時、何があっても神を信じ続けることによって、人は成長するのである。

イエス・キリストという門をくぐったならば、イエス・キリストは永遠のいのちを与え、それを豊かにします。永遠のいのちを豊かにするとは、信仰が成長することです。信仰が成長すると、神が言われた約束の言葉に対して確信が持てるようになります。そしてこれが私たちに真の平安をもたらしてくれます。

イエス様は、私たちが真の平安に行き着くことができるように、この地上で肉体の死を迎えるまでに会おう試練に対して信仰で立ち向かうことができるように、励ましてくださっているのです。

■勝利を得る者

「わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす。耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」（黙示録 3:11-13）

「わたしは、すぐに来る」という言葉は、黙示録の中に何度か出てくる特徴的な言い方ですが、それは、肉体の死を象徴しています。

イエス・キリストが来られるとは、私たちが肉体の死を迎える時、キリストが天に引き上げてくださるということです。若い時は、死はまだまだ先にあるという感覚ですが、いざその時を迎えると「人生は短かったな」「あっという間だったな」という思いに駆られるとよく言われます。しかし、その時には、神があなたを引き上げてくださるから心配しなくてもよいと、神は私たちを励ましてくださっているのです。

さらに、「あなたの冠を誰にも奪われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい」とあります。私たちはもう義とされた者であり、救いを受けた者であり、イエス・キリストを持っている者であり、永遠のいのちを持っている者です。これは、誰も奪い取ることはできません。だからこそ、その確信をしっかりと持っているようにということです。

また、イエス・キリストを信じている者は必ず「神の聖所の柱」となる、と語られています。それは、あなたは必ず天に引き上げられ、滅びることがないということです。そして、「彼はもはや決して外に出て行くことはない」とは、あなたは二度と死の世界に戻ることはできないということです。その柱に書き記される、「神の御名」と「新しいエルサレムの名」「わたしの新しい名」とは、三位一体の神を表しています。「神の御名」は、父なる神を象徴しています。「新しいエルサレムの名」は、天から下ってくるとあるとおり、聖霊を象徴し

ています。そして、「わたしの新しい名」とは、イエス・キリストの新しい名、つまり、地上でのイエス・キリストではなく、勝利を得て天に昇られたイエス様を強調しているのです。

つまり、私たちはもう神の国に必ず引き上げられてそして絶対動かない柱となって、死の世界に戻ることはできないし、あなたの中に父と子と聖霊の名が書き記された、つまり、あなたは神によって完全にとらえられ、神から引き離されることは絶対はないと言っているのです。

父と子と聖霊があなたを完全に守る、これが神の神殿です。この御言葉は、神の完全な勝利を高らかに宣言し、絶対に心配はないということが一貫して語られているのです。

聖書が「聞きなさい」と語る時、それは「服従しなさい」ということです。「信じる」というのは、服従なのです。なぜなら、これは真理だからです。真理ゆえに、私たちは服従するのです。イエス・キリストはご自分のことを「真理」だと言われました（ヨハネ 14:6）。イエス・キリストが言われることは正しいのですから、これを信じて服従すること、この信仰にしっかりと立つように語られているのです。

黙示録は、「わたしがこんなにも保証しているのだから大丈夫だ、わたしの言葉を信じなさい」という神の思いが一貫して語られています。このことばを信じる者は幸いです。さまざまな誘惑、試練に会うけれども、信仰から離れることがないように、イエス様は、私たちを励まし続けておられます。